



提供：花巻東高校

プレイバック

甲子園

岩手が揺れた熱い夏



菊池 雄星

Yusei Kihuti

PROFILE

盛岡市生まれ、見前中出身。身長183cm、体重84kg
左投げ、左打ち。小3から野球を始め、盛岡東シニア
リーグ所属。ポジションは投手。
09年プロ野球ドラフト会議で6球団から1位指名を受け、
埼玉西武ライオンズが交渉権を獲得。背番号は「17」に決まり、
プロでの活躍が期待される岩手の星。

第91回全国高校野球選手権大会で岩手県勢90年ぶりと
なる4強入りを果たした花巻東。夢舞台「甲子園」で魅せた
輝きは地元住民に夢と感動を与えてくれました。ここでは、
岩手の農畜産物を食べて育ったナインをピックアップして
6選手を月ごとに紹介していきます。

情熱は
最高の
スキル
#ノ最に星

◆スキルアップの道
野球が上手だから野球をす
るのではない。技術がある
から技を磨くのではない。
中途半端な気持ちではな
く、目標とする課題に向
かって熱く取り組み、一生
懸命な姿勢で直向きに反復
することで、必然と技術や
知識が身に付く。だから野
球ができるようになる。

3年間の集大成で仲間ととも
に「日本一」を掲げて挑ん
だ夏。4強をかけた明豊高校
戦の終盤に、雄星くんの姿が
ありませんでした。左脇腹痛
で無念の降板。いつもであれ
ば外野で再登板を待ちます
が、佐々木洋監督は苦渋の決
断でベンチへ下げたのです。
「頼むからあと2試合、投
げさせてほしい」。2番手
の投手に想いを託し、ベンチ
から檄を飛ばす姿は、地元の
応援団のみならず、多くの観
衆を引きつけました。ぎこち
ない走りながらも伝令でマウ
ンドやバッターボックスへ向
かい、チームを鼓舞。ピンチ
のときは明るい話題で和ませ
た一幕もあるそうです。

中京大中京戦では、チーム
が描いたシナリオとは違う場
面でのリリーフ登板。4回の
裏、2死満塁で投じた2球目
のストレートは弾き返され、
甲子園最後の試合は、わずか
11球で終わったのです。「最
後の最後でチームのみんなに
迷惑をかけてしまった。自分
を慕ってくれたみんなに申し
訳ない」と、人目をはばか
らず泣きじゃくるエース。そ
れでも「最後は甲子園のマウ
ンドで投げるのができて幸
せだった。だから後悔はない」
と語ってくれました。

これからはプロ野球界での
戦い。岩手のお米や野菜と
いった農畜産物が支えた肉体
と自慢の体の柔らかさを武器
に、高校で培った『全力で取
り組む姿勢（スタイル）』を
貫くと断言。「東高校で学ん
だことを活かさなければ意味
がない。数字は抜きにして、
みんなから応援され、地元岩
手に愛される選手に育ちた
い」と抱負を語ります。

左腕としては甲子園史上最
速の154キロをマークした
雄星くん。高校生活で成し遂
げられなかった「日本一」や目
標とする「メジャーリーガー」
が将来の夢。ただ、もう一つ
の夢だけは叶えてほしい。
「いつの日か、この最高の
メンバーとまた野球がしたい
です」。

次回予告：次回は投打で大活躍だった猿川拓朗くんが登場します。